

小学部 自立活動「きらめきタイム」の紹介

(小学部では自立活動の授業をきらめきタイムと呼んでいます)

題材名 「自己理解 ～やる気のメーターを作ろう～」

自立活動学習指導要領【関連項目 1 健康の保持(4)、3 人間関係の形成(3)、6 コミュニケーション(5)】

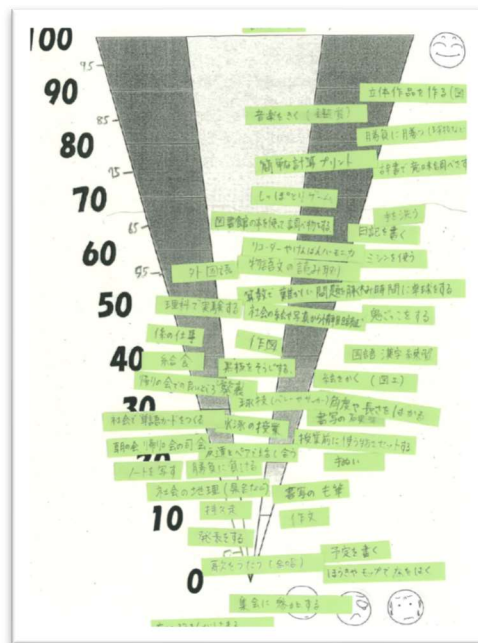
目的 どのような活動でやる気が出たり、落ち着いたり、落ち込んだりするかを理解する。

内容

0～100まで気持ちを数値化したシートに、児童が活動(授業の内容や状況)を振り分ける。
0に近づくほど、落ち着いている状態。
※活動には「国語」「算数」「図工」などの教科名や「日記を書く」「集会に参加する」「絵を描く」などが入る。

児童のあらわれ

やる気のメーターを作ることによって、どのような活動や状況のときにいらいらしたり、落ち込んだりするのかを整理できました。そして、そのような活動の前にはどうしたら参加できるのか教師と話し合うことができるようになりました。



題材名 「自己表現 ～ティッシュとばしゲーム～」

自立活動学習指導要領【関連項目 3 人間関係の形成(3)(4) 6 コミュニケーション(2)(5)】

目的 自分の気持ちに気づき、他者に言葉や文字で伝える。

内容

ティッシュを1枚折り曲げずに、より遠くに飛ばすことで勝敗がつくゲーム。ゲームの前には、「勝っても負けても大丈夫。」と合言葉を確認する。そして、ゲーム後は、ワークシートや活動の振り返りで、場面ごとの気持ちやその変化に着目できるようにする。言語化をしやすいするために、気持ちを表す言葉の一覧表や表情のイラストを用意した。



児童のあらわれ

「ティッシュとばしゲーム」後、振り返りを行うことで、勝ったときには「嬉しかった。」「楽しかった。」と伝えることができました。負けたときには初め何も伝えられなかった児童には、教師が「負けて悲しい。」と伝え方の手本を見せました。次第に児童も「悔しかった。」「残念だった。」と伝えることができるようになりました。

中学部 自立活動「スマイルタイム」の紹介

(中学部は自立活動の時間をスマイルタイムと呼んでいます。)

題材名 「それぞれの立場から主張する

～犬派、猫派に分かれてそれぞれの立場で犬、猫の良さをアピールしよう～

自立活動学習指導要領 【関連項目 3人間関係の形成(1)(4) 6コミュニケーション(1)(2)(5)】

目的 自分の置かれた立場を理解し、立場にあった主張を相手にすることができる。

内容

① 活動の流れの説明を聞く。

- ・テーマ「ペットを飼うなら“犬”か?“猫”か？」
- ・くじ引きで「犬派」「猫派」「判定員」の役割を決め、グループに分かれる。
- ・それぞれの立場から、犬、猫の良さを判定員にアピールする。
- ・判定員は、どちらの主張に魅力を感じたか判断し、どちらかに票を入れる。

② 判定員が判断するときの判定基準を確認する。

- ・相手の意見を否定しない。ただし、デメリットは指摘してもよい。
- ・自分の好き嫌いだけでなく、自分の立場から犬、猫の魅力をより伝わりやすく主張する。

③ グループで話し合い、アピールする内容や、アピールする順番を相談する。

④ 交互に判定員にアピールする。

⑤ 判定員が判断を下す。

⑥ 自分の立場に合った主張ができたか振り返る。



生徒のあらわれ

くじ引きで立場を決めたことで、自分の好き嫌いという観点からだけでなく、それぞれの立場から様々な意見を考えることができました。自分の考えを表すことが苦手な生徒も、ホワイトボードに意見を書いてから発表することによって、自分の意見を伝えることができました。

振り返りでは、「勝敗はついたが、勝ち負けではない。」「主張できてよかった。」などの感想が聞かれました。

参考資料 一般社団法人ダイジョブ・プロジェクト「青年期のSST」

2015厳選シリーズ vol3 「主張する」自己主張/仲間との協力

高等部 自立活動の紹介

題材名 「異年齢で話し合い活動をしよう。～会食のメニューを話し合おう～」

自立活動学習指導要領 【関連項目 3 人間関係の形成(3)(4) 6コミュニケーション(5)】

目的 異年齢の小集団での話し合いを通して、集団活動での自己の行動や課題に気付く。

内容

① 話し合いのきまりを確認する。

きまり

- ・必ず1回は自分の意見を伝える。
- ・相手の話を聞くときは、相手の顔を見る。
- ・相手の話を聞いて共感した時には「いいね。」とあいづちを打ったり、うなずいたりする。
- ・相手が聞き取れる声の大きさや速さで話す。

② 会食のメニューについて話し合う。

5～7人の小集団を形成する。2人組での話し合いから段階的に人数を増やしていく。



チェック項目の例

- ・相手に聞こえる声の大きさを話せたか。
- ・相手の意見を認める発言やリアクションができたか。

③ 活動を振り返る。

- ・自分ができたことを言語化する。
- ・教員が生徒のできたことをフィードバックする。
- ・話し合いのチェックリストに5点満点で点数化する。

生徒のあらわれ

チェックリストの項目に点数を付けたことで、「話し合い」のどんなところが苦手なのかに気付くことができました。人前で発言することが苦手な生徒は、考えを紙に書いて、自分の意見を伝えようとする姿が見られました。また、どのように表現すればよいか分分からず、意見を言うことが難しかった生徒は、考えを紙に書いて整理することで自信を持つことができ、自分の言葉で発表することができるようになりました。